

被爆70年へ、核兵器のない世界の実現へ声をあげましょう

広島と長崎への原爆投下から69年が過ぎました。来年、被爆から70年を迎えます。被爆者の平均年齢は79歳を超えます。「生きていくうちに核兵器のない世界を」と訴え続けてきた被爆者のねがいは切実です。被爆国の草の根から、「核兵器のない世界を」の声と行動を大きくし、核兵器禁止・廃絶につなげなければなりません。

核兵器と人類は共存できない

いま世界では、来年にニューヨークで開かれる核不拡散条約(NPT)再検討会議を焦点として、「核兵器のない世界」の実現へさまざまな努力がされています。

国際政治で大きな流れになっているのは、広島と長崎への原爆投下に見られるような、核兵器使用の非人道性を告発し、廃絶を訴える「人道的アプローチ」です。



この流れを進めているオーストリアの政府代表は、「ことし8月に広島で開催された原水爆禁止世界大会で、「核兵器への依存はおそろく、核拡散の最大の原動力」「核兵器が安全保障を提供するという考えを否定し、克服しない限り、核軍縮と核兵器のない世界は達成できない」と述べ、核兵器のもたらす非人道性を国際社会全体のものにしよと呼びかけました。

被爆国から世界へ核兵器全面禁止の声を

核兵器のない世界を実現するためには、核兵器禁止・廃絶をめざす政府や国際機関、自治体、市民社会など、世界のあらゆる人びとの努力を集めなければなりません。その力ぎを握るのは、被爆国日本の草の根の声と行動です。

私たちがいまとりくんでいる「核兵器全面禁止のアピール」署名は、市民社会の立場から、こうした努力を励まし、全ての政府に核兵器のない世界への決断と行動をもとめるものです。被爆70年、2015年NPT再検討会議に向けて、被爆国国民の声を響かせましょう。「核兵器全面禁止のアピール」署名にぜひご協力ください。

(2014.9.6)